

評価

- A・・・目標を達成した部分が多く、成果が認められる。
- B・・・目標をある程度達成し、成果が認められるが、課題も残されている。
- C・・・目標達成には遠い位置。今後の課題として取り組むべきである。

令和2年度 那珂川町立馬頭小学校 学校評価報告書

評価項目	評	取組状況・成果・課題	改善策	学校関係者評価・第三者評価でいただいた意見
学校の目標（重点は○数字）・具体策				
<b>I 特色ある学校づくりのための学校運営</b>				
1 学校の組織力を生かした学校運営 (1)特色ある教育課程の編成と実施・改善・充実 (2)ブロック・学年での指導体制の充実	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・週案が、毎週提出されており、カリキュラムマネジメントに役立っている。学習進度の確認や学習内容の見直し等により活用が図られるとよい。</li> <li>・緩やかな学年担任制（教科担任制）が進んだことで、教材研究の時間が確保された。</li> <li>・通信票の改訂で、児童指導、学習指導に時間がとれるようになった。働き方改革を更に進めてほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・週案の活用について共通理解を図るための研修を実施する。</li> <li>・働き方改革については、昨年度の検討会の結果をもとに更に推進していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・芸術鑑賞教室は、来年度は実施の方向で検討してほしい。</li> <li>・教科担任制のよさを生かしつつ、小学校という発達段階を考えると、担任と子供の絆についても大切にしていきたい。</li> </ul>
2 教育力を高めるための研修の充実 (1)学校課題の研究推進	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学力向上推進リーダーによる授業前のアドバイス、参観授業後のフィードバック等きめ細かい指導のもと、授業力・指導力の向上につながった。</li> <li>・指導案検討などブロックの研究や研修が充実しており、若手の育成にもつながっている。授業を参観し合う場を作っていくことで、さらに指導力向上になる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ちょこっと参観」が更に活発になるよう働きかけていきたい。</li> </ul>	
③ 教育効果を高めるための施設設備の充実と組織的な安心・安全づくり (1)危機管理の改善・充実(防災・アレルギー・新型コロナウイルス感染症対応等) (2)危機意識の向上と危機回避能力の育成	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災や感染症など様々なマニュアルが作成され対応の統一が図られており、学校としてはやるべき対策はとれている。</li> <li>・引き渡し訓練が実施できてよかった。</li> <li>・危機意識の緩みが見られるので防犯意識を向上させたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防犯意識向上のための取り組みをする。 (不審者訓練の実施、教員のホイッスル携帯、児童が教室で倒れたときの訓練など)</li> </ul>	
<b>II 確かな学力の向上を図る学習指導</b>				
① 他の学習や生活でも活用できる基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得 (1)基本的な学習規律と学習習慣の育成 (2)基本的な学習過程の構築と徹底	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「学習のきまり」がまだ徹底されていない。指導者側の意識を高めていくことが必要である。 (学習用具の準備、休み時間の使い方、チャイム着席など)</li> <li>・基本的な学習過程を意識して、板書が構造的になっている。見開きノートも定着してきた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体策を検討、共通理解して3学期からできるところを進める。(チャイム着席、休み時間の使い方など)</li> <li>・学年間で子供のノートを見せ合い確認していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習のきまりについては家庭への積極的な働きかけも必要である。</li> </ul>
2 よりよく学習や生活上の問題を解決したり創造したりできる思考力・判断力・表現力の向上を目指した授業改善 (1)学びがいがある学習問題・教材の工夫	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・好奇心や解決意欲を高めるような教材の工夫、非連続テキストの活用が図られた。次年度にも引き継ぎたい。</li> <li>・ICTの活用が、学習意欲の向上につながっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間計画の中に位置づけて来年度も活用できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICTの活用は進めてほしいが、併せて数学的操作活動などを大切にしていきたい。デジタルに置き換えた時に大切なものが抜けることが心配である。</li> </ul>
3 主体的に学習に取り組む態度、人や社会と関わる力の育成 (1)認め合い、学び合う集団づくり	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校課題の取り組みにより、自分の考えをもつことができるようになってきた。伝え合うことについては、技能の定着がまだまだである。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・考えを伝え合う場面を意図的に設定する。技能の定着のため、使ってほしい言葉のリストを提示したり、発表話型を提示したりする。</li> </ul>	
4 言語能力の育成 (1)言語感覚の醸成と豊かな語彙力の育成 (2)言葉の使い方についての理解の深化 (3)言葉を通じて伝え合う力の育成	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・辞書引きは継続して取り組ませ、語彙力や言語感覚を高めていきたい。</li> <li>・多層指導モデル MIM（読解力の向上策）を継続してきたことで少しずつ効果が出てきている。また、補充を行ったことで成果も見られた。</li> <li>・自分の考えを詳しく書き表せるように指導したい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習用語をきちんと使ってまとめや振り返りをさせるようにする。(用語を使って友達に説明できる。)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・MIMについては、文字に触れる機会が少なくなっている現状があるので、取り出し指導等今後も進めてほしい。</li> </ul>
<b>III 自己指導能力を高める児童・生徒指導</b>				
1 豊かな情操や人間性を培う活動の充実 (1)特活を中心とした自治的・主体的な活動の推進 (2)地域のひと、もの、ことを生かした豊かな体験活動の充実	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・委員会、クラブなど子供たちが中心になって企画・運営し楽しく活動できるようアイデアが練られている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の教育資源をより活用していきたい。読み聞かせに町図書館司書の協力を依頼するなど。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あいさつ運動は、地域の絆として大切にしたいが、難しくなっている。</li> </ul>
② 人権尊重の精神に根ざした望ましい集団の形成 (1)豊かな人間関係を育む学年・学級経営の推進 (2)積極的・組織的な児童指導の展開	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ケース会議、支援会議を定期的に関し、共通理解を図りながら配慮児童への支援体制を整えることができた。</li> <li>・こころのアンケート、教育相談を通して児童理解に努め、問題行動の早期発見・対応に努めた。</li> <li>・基本的な生活習慣（トイレのサンダル、無言での移動・整列など）なかなか徹底できていない。教職員の共通理解のもと、本気になってどれかをやってみたらどうか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校のきまりを徹底する。特にトイレのサンダル、無言での移動・整列については、3学期より具体策を立てて重点的に指導に当たる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な生活習慣については、教職員が一丸となって取り組んでほしい。家庭との連携が大切であるがなかなか難しいなかで、少なくとも「学校はきちんとやる場」という意識付けをしてほしい。</li> </ul>
3 道徳的実践力の育成 (1)基本的な学校生活習慣の育成 (2)特別の教科道徳の確実な実施と指導の工夫	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ローテーション道徳により教材研究に時間をかけることができた。</li> <li>・道徳性アンケートを実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者のアンケート結果を考察し、次年度の重点目標設定にあたる。</li> </ul>	

IV 健康・安全、体力の向上				
1 健康な体づくりを目指した全校体育活動 (1) 発達段階に応じた教科体育の充実 (2) 運動遊びの奨励と用具や環境整備の充実	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症の影響で、運動にも制限がある中で、できる活動を工夫しながら実践してきた。毎朝の50M走は、継続して行うことができた。</li> <li>・外遊びを推進していることで、業間や昼休みには多くの児童が校庭で遊んでいる。異学年での交流の場にもなっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在行っている50メートル走がさらに定着するよう働きかけを継続していく。</li> </ul>	
② 安全教育の充実 (1) 学校教室のきれいな環境作りの推進 (2) 危機回避能力の育成	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度からの取り組みである無言清掃がなかなか浸透しない。</li> <li>・感染症対策として「新しい生活様式」が浸透してきた。気を緩めずしっかりと徹底したい。</li> <li>・児童による安全点検を学期1回実施し、児童目線での気付きを大切にすることで注意喚起ができた。安全点検結果に基づく事後処理がたいへん迅速だった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・無言清掃は、音楽なし（無音清掃）で、静かな状態で清掃に取り組んでみる。</li> <li>・「ちゅうい」の表示による啓発ではなく、学校のきまりの徹底を図る。（廊下の歩き方、教室での過ごし方など）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・無言清掃により、集中して働くこと、気働ができる子になってほしい。</li> </ul>
3 食と健康の教育の充実 (1) 家庭と連携を図った基本的な健康生活習慣の形成 (2) 養護教諭や栄養教諭との連携を図った保健学習や食に関する学習の充実	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭でのメディアの使いすぎで、睡眠負債状態の児童が多い。家庭への働きかけをどう行えばよいか。</li> <li>・養護教諭による歯科指導、栄養教諭による食育指導は子供たちは真剣に聞いていた。意識も高まった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ノーメディアについては、全学年統一して指導する。児童の実態から、ノーメディアは難しい。必要のないときはメディアを消す指導にする。</li> <li>・教室の換気の仕方（幅・対角線）を各クラスに提示する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メディアとの付き合い方については、家庭との連携が必要である。スマホ等の使用についてしっかりしたルールが必要だが、学校から提案することはできないか。町としての取り組みも必要である。</li> </ul>
V 家庭・地域との連携				
① より質の高い情報提供と家庭・地域との連携を生かした活気ある学校づくり (1) こ小中の連携を図った教育の推進（ハッピースローププラン） (2) 各種たよりやHP、一斉メールによる情報提供	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年は交流活動の実施が難しかったが、馬頭高校の生徒による「那珂川学」をオンラインで視聴することができた。新しい交流の形である。</li> <li>・HPは毎日更新し、学校を知る情報源として保護者に活用してもらえよう努めた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼小、小高の連携は進んでいるので、小中の連携を検討する。（理科・美術・英語の交流授業や生徒会活動見学など）</li> </ul>	